

めざす子ども像 **郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども****取組目標** 様々な体験活動や地域の方々との交流を通して、校区の自然・歴史・文化等の良さを知り、豊かな心と自主的に行動する力、コミュニケーション能力を育てる

今年度の取組紹介

ミニ生命のメッセージ展開催

中学校区の園児から中学生までが一つになれる行事「ふれあい広場」が今年度は残念ながら中止となりました。今年は校区でテーマを「命」とし各校園でその発達段階に応じて奈良県助産師会による「いのちの講座」を開催することになりました。生まれることの神秘さや自分を大切にすることなど、校区みんなで考えることが出来たと思います。

また中学校では助産師会の講座だけでなく、このコロナ禍だからこそ命の尊さを、今あるあたりまえの生活の有難さを少しでも感じ取って欲しいとの思いを込め、また校区のみなさんとも一緒に...と、体育館にて「ミニ命のメッセージ展」を協議会コーディネーターの協力のもと開催しました。地域の皆様にもご参加いただきました。

準備が整った体育館は、どこことなく空気が一変したことも印象深く残っています。生徒達、教職員、地域の方々が、見て感じたこと受け止めたことはそれぞれ違いますが、校区で「生」と「死」を考える取組となりました。



今年度のまとめ

今年度は、様々な活動を中止する中で、コロナ禍でも出来ることとしてテーマを「命」として各校園でそれぞれ取組をすすめました。奈良県助産師会からはどの学校も同じ助産師さんによる講座で、小中の学びのつながりもより一層強く感じました。今年の大柳生太鼓踊りは、踊り保存会、地域の皆様方の暖かいご指導のもと練習を工夫し取り組みました。楽しみにしている地域の方々の前ではその成果を披露できず残念でしたが、歌・鉦は地域の方々が担当し生徒たちと一緒に今年度の踊りが出来上がりました。そこにはいつもとは違った地域の方との達成感がありました。

来年度に向けて

今年度の取組を踏まえ、コロナ禍で出来ないこと、出来ることを学校園と地域との連携をとり、協働しながら企画運営していくことが必要です。また地域全体に協議会の活動を浸透できるよう、また新しい人材の育成、さらに地域が主体的に行事に取り組めるよう広報活動の充実を図ることも大切な取組となります。

めざす子ども像 **郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども**

取組目標 **故郷を愛し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成**

【今年度の取組紹介】

地域の方と共に学ぶ

自分たちの校区のすばらしさを、自分たち自身が知ることが大事だと考え、豊かな自然の中で、地域人材を活かした多彩な体験学習を進めています。なかでも大柳生太鼓踊りは、地域保存会・地域ボランティアの方々によるご指導のもと取り組んでいます。発表の場である地域行事「ふれあい広場」は、今年度は中止となり3年生の保護者のみに公開し、その成果を披露しました。今年は



歌・鉦を地域の方が担当し、生徒と共にこの大柳生太鼓踊りをつくりあげることができ、例年ない感動が体育館中に広がりました。この体験学習を通して伝統文化の素晴らしさ、受け継ぐことの大切さと難しさ、そしてその思いを感じ、受け止めたことと思います。



この他にも木剣体操や白砂川の水質調査など地域と共に学ぶ学習はESD（持続可能な開発のための教育）の活動の1つとなっています。

【今年度のまとめ】

上記の他にも、地域花いっぱい活動や校区清掃活動など地域を大切にする、地域に貢献する活動もコロナ禍ではありましたが実施できました。体験学習や伝統文化などを学ぶことにより、故郷を愛する心、地域を誇りに思う心を育んでいます。地域の方々の支援により生徒達の学びは広がりをみせ、そして何より地域の方の熱心な姿は、生徒が主体的に学ぶ力を自然と引き出させてくれています。

【来年度に向けて】

少人数を生かした全校体制の取組が本校の特徴でもあります。来年度もこの利点を生かし、地域人材を活かした体験学習などをより一層積極的に進めていきたいと思っています。また、あらゆる機会において地域の方々に本事業の取組を伝えることで、更なる協力体制につなげていきたいです。

めざす子ども像 郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標 地域の特色を生かした体験的な活動を多く取り入れる中で、
「いきいき・わくわく・元気な柳生っ子」を育成する。

【今年度の取組紹介】

1、柳生の伝統を体験的に学ぶ

6年生は毎年卒業記念制作として「柳生焼体験」を実施しています。柳生の土を使った粘土を使い、土の器を制作します。地域の陶芸店「柳生堂」さんの作業場をお借りし、丁寧に作り方を指導していただきます。児童は思い思いの作品を制作します。隣はとてもすてきな作品のギャラリーになっています。焼きあがった作品は、毎年卒業式の式場で展示披露します。



柳生焼体験

2、人権参観 「命の講座」

興東館柳生中学校区の「命」をテーマにした取組で、本校では、助産師さんをお招きし人権参観「命の講座」を実施しました。助産師さんの別室からのリモートによる講座になりましたが、児童が意欲的に視聴・体験し内容の濃い講座になりました。地域の方の参観もあり、保護者の質問タイムは、(少人数に分けて実施)のべ60分になるなど、熱心なご意見や質問が相次いで出され、充実した取組になりました。



命の講座

【今年度のまとめ】

感染症防止対応が必要な中、地域の方の協力により「お話しの会」「柳生焼体験」「炭焼き体験」等、地域にゆかりのあるさまざまな学習活動を展開できました。地域の方のご厚意により開催方法を工夫して地域を知る充実した内容の体験学習を実施することができ、子どもたちは自らが住む地域の魅力を味わうことができました。

【来年度に向けて】

例年興東館柳生中学校区で合同開催している「ふれあい広場」は、本年度は感染症防止対応のため開催形式を変え、各校園「命」を統一テーマにしたさまざまな取組になりました(上記参照)。

今後、「ふれあい広場」の企画運営を改善していく方法の一つとして、各校園の実務者と総合CNがともに話し合い情報共有していく機会や会議を設け、地域の方・教員・保護者の共通理解を図ることができればと考えています。そして地域の和が深められる有意義な取組にしたいと考えています。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちが地域とのつながりを感じられる取組の充実をはかる。

【今年度の取組紹介】

地域の方々との出会いを大切にし、地域の教育力をお借りして、本校教育を推進しています。なかでも“もち米作り”を行い、米に関わる様々な体験学習を今年度も実施しました。今年度はコロナ感染症のため、4月から6月まで臨時休業になりました。そのため田おこし・田植えを教員で行いました。子どもたちは、稲刈り・脱穀・粃摺りと年間を通して地域の方々に支援していただき“しめ縄づくり”までの活動を今年度も実施できました。本校にとってこの米作り体験は、地域で学ぶ体験学習事業の軸となる取組です。

その他にも3年生の蜜蝋でのろうそく作り体験、4年生の白砂川でのニジマス放流体験、5年生の絵手紙教室、6年生の円成寺への歴史遺産学習として、校区にある国宝をもつ円成寺を訪問しています。その他、計画はあったのですがコロナ感染症対策のため実施することができず、本当に残念で仕方ありません。しかし、ここまでたくさんの活動が実施できたのも地域の方々のご協力あってのたまものであると感謝しています。



【今年度のまとめ】

本年度も地域の方々の熱心な支援・協力のもと学校としての取組も順調に進めることができました。どの体験活動でも児童が生き生きと活動し、楽しそうにしている姿から本当に貴重な経験をさせていただいていると感じました。子どもたちはその体験活動からたくさんのことを考え、学んだことを作文で表現していました。また、地域の方の思いや願いを知り、感謝の気持ちを表現していたことから、学校に対する地域の方々とのつながりがさらに深まった様子がうかがえました。

【来年度に向けて】

校区から得られる人の温かさ、地域の産業、伝統文化の再確認と伝承していくことの大切さを学び、郷土のことを誇れる児童に育てていきたいと考えています。そのために、校区の歴史や伝統・産業を学び、先人の知恵や思いに触れ、体験を通して感性を育てていきたいと考えます。また、次年度も、これまで行ってきた活動を糧に、地域と連携・協働し、人と人とのふれあいから生まれる豊かな心を大切に、学校・地域の実情に合わせた取組を考えて、地域との絆をさらに強固たるものにしていきたいと思います。

めざす子ども像

郷土に誇りをもち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

自然や地域の人との関わりを通して、豊かな心を育み主体的に活動に取り組もうとする態度を育成する。

【今年度の取組紹介】

コロナ禍の中、取組内容や活動を考慮して進めてきました。その中で、地域の特色を活かした伝統文化や歴史に触れ親しむ経験や、地域の方に『地域の先生』として来ていただいたの様々な体験活動を計画的に取り入れ、園と地域が一体となつての取組活動ができました。

○菜園活動

- ・畑の先生として地域の方から、その時期のいろいろな野菜苗や種のまき方を教わってきました。秋には、『収穫祭』で、やきいもにしていたきました。



○「命」のテーマとして絵本活動

- ・絵本「はらぺこあおむし」「うまれてきてくれてありがとう」から命の大切さを学び、5歳児「ともだちや」から表現活動へつなげ、子ども達は仲間と共につくりあげる楽しさと認め合うことを学びました。



○柳生焼体験

- ・土をこね、ひも状にして積み重ねていき器の形に仕上げました。重ねた所が薄くならないように伸ばしていくことが難しかったようでした。出来上がった器を見て子ども達は、「お味噌汁入れるわ」と喜んでいました。地域の方とふれあい、いろいろなことを学ぶ機会となりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍の為、できる範囲内の活動内容でした。その中でも、地域が一体となつての取組を継続できるようにしていたことで、子ども達は園の教育活動では経験できないたくさんの人との出会いと交流ができ、自然と人と人とのつながりができていきました。いろいろな経験を通して、認めてほめてもらえる事は、子ども達の大事な育ちの根源であり、少人数の園であるからこそ大事に育みたい思いやり、認め合い、たくましさに繋がっていく取組であるとこれらの活動を通して実感しています。また、地域の方の温かいまなざしとご理解・ご協力により実践できたことに深く感謝をしています。

【来年度に向けて】

地域全体で少子化が進み利用園児が減少する中で、本園が担う課題は大きいです。地域の中で子ども達が豊かに育つためには地域の人・もの・こと(地域資源)と触れ親しみ、顔見知りとなることで関係が豊かに広がっていきます。今年度、取り組んできた活動の成果を次年度に繋げ、地域と共に子ども達の育ちや学びを大事に見つめ、活気ある豊かな地域活動をこれからも展開していきたいです。